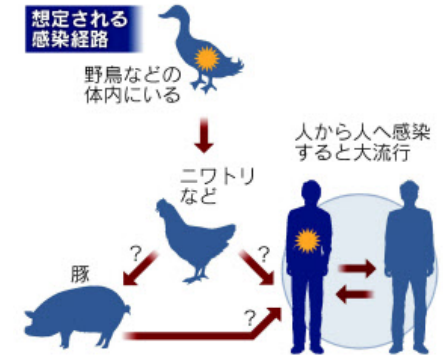


*** 今日の健康(4月) ***
< コロナの影で鳥インフルエンザ >

今年に入って米国で高病原性鳥インフルエンザの感染が急拡大しています。採卵鶏を中心に3月18日時点で、全米17州で38件、740万羽の被害・殺処理が確認されています。

日本では農水省と宮城県で、3月25日同県石巻市の肉養鶏農場で、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されたと発表しました。国内の農場では今季11県17例目。同県では2017年3月以来の発生となっています。県はこの農場で飼う3万2000羽の殺処分など防疫措置を始めました。

北海道では今シーズン、ハシブトカラスから鳥インフルエンザウイルスが過去最多で検出され、カラスの大量感染は国内では5年ぶりで道内では初です。餌場で接触するなどして拡大した可能性があります。身近な鳥類で年中飛び回り、渡り鳥の飛来が落ち着く5月以降も強い警戒が必要となる恐れがあります。



環境省や道によると昨年10月以降、道内では野鳥60羽(3月23日時点)からH5亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルスが見つっています。うちカラスは53羽と、道内で集計を始めてから最も多く、今シーズンは道内8市町と岩手県久慈市のカラスから高病原性鳥インフルエンザウイルスが見つっており、カラスで発生するのは全国的に珍しい現象です。

野鳥では感染が継続して確認されており、鳥インフルエンザのシーズンは終了しておらず、引き続き日本のどこで発生してもおかしくない状況になっています。

鳥インフルエンザがブタに感染すると、ブタとヒトは種が近いために人にも感染することが懸念されています。

鳥・ブタインフルエンザウイルスの地球規模でのヒト感染事例の状況について昨年11月に国立感染症研究所から報告されておりブタのインフルエンザ発生状況の警戒が必要です。一方、カラスで感染・増殖しやすいウイルスが広がっている可能性も否定出来ません。

一般的に鳥インフルエンザウイルスは、近年N7を除くN1-N9 NA亜型の高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)を引き起こすA/H5亜型ウイルスが世界各地の家禽や野鳥(以下、愛玩鳥等含む)に蔓延し、ヒト感染例の報告があるのはHPAIのA(H5N1)、A(H5N6)、A(H5N8)ウイルスが知られています。

他に、A/H7亜型、A/H9亜型ウイルス等があり、日本でヒト感染例の報告はまだないですが、引き続きブタインフルエンザウイルスの発生状況を注視していく必要があります。